



研究部HP 版

第8版 教育研究部 令和2年8月発行

(文責:細井)

～強化子を用いて2～

1 毎朝のお約束

A君は毎朝、保護者に車で送ってもらい登校していました。下車した後、教室に向かうまでにほぼ毎朝保護者に行っていることがありました。A君自らが、いろいろな色のマジックペンを使って新聞紙に書いた文字を、一つ一つ読み上げ、時にはそれを何回も繰り返し行い、保護者と書かれていることについて確認することでした。そこに書かれていることは、「カレーライス」や「唐揚げ」「うどん」などの食べたい物、「お絵かき帳」や「DVD」などの欲しい物、「お店」や「公園」などの行きたい場所で、放課後どうしたいのかを羅列したものでした。保護者と念入りに確認し、約束する様子から、「これは強化子に使えるのでは」と考えました。そこで私は書かれていることをメモするようになりました。(※A君が新聞紙に書いていた文字は、全てではないですがA君独特の表現を用いて、「カレーライス」も違う表記で書かれていました。ここでは伝わりやすいよう一般的な名称で記載しています)



2 トークン

新聞に書かれていることを強化子に使うにあたり、私は約6cm四方のカードを用いることにしました。白地のカードにメモしたものを黒マジックで書きます。そして、そのカードを貼り付けるのはがき程度の大きさのボードも用意しました。ボードには「このためにがんばります」と書いてあります。カード(とボード)を強化子とするための準備です。使用する際の手順は次のとおりです。



- ①A君に授業内容や課題など何をするかを文字や絵カード、あるいは具体的にやって見せて提示する。
- ②A君がその日の朝、新聞に書いていたこと、例えば「うどん」であったならば、それを書いたカードをボードに貼り付け、A君に見せながら「このためにがんばります」と言葉かけをする。
- ③授業内容や課題を取り組み終わったら、直径2cmほどの円形状のマジックテープをA君に渡す。
- ④受け取ったA君は、それをボードに貼り付ける。
- ⑤A君は貼り付けたマジックテープをはがし、それを私に渡す。
- ⑥マジックテープを受け取り、「うどん」(＝強化子)をA君に渡す。

この一連の流れのことを「トークンエコノミーシステム」といいます。③から用いているマジックテープを「トークン」といい、トークンは「代替貨幣」という意味です。③～⑥の流れのイメージは、③仕事を果たして給料(お金)＝「トークン」を受け取り④お金＝「トークン」を財布＝「ボード」にしまう⑤欲しい物＝「強化子」を手に入れるために財布＝「ボード」から、お金＝「トークン」を支払う、です。将来、実際のお金のやりとりに繋がればと考えています。



トークンやボードの形状や大きさなどは、特に決まりはなく、対象者に合わせて用意することになります。

A君との、黒板にキャラクター名等を書くというやりとりの際には全て口頭で行っていましたが、これ以降はトークンやボードを用いることで、何のために授業や課題をがんばっているのかを視覚的に捉えられるようにしました。

3 「柿の種」から「カレーライス」「うどん」「お絵かき帳」「お店」へ

実際に始めるにあたり、トークンの使い方をA君に知ってもらう必要がありました。A君にとっての新しい取り組みを、抵抗なくスムーズに受け入れられるよう簡単な課題から始めました。強化子にはA君が好んで食べると保護者から聞いていた「柿の種」を用意しました。毎朝、新聞に書かれたことを読みながら保護者と確認している「カレーライス」「うどん」「お絵かき帳」「お店」などを強化子に用いなかったのは、放課後A君がどうしたいかを書いたものであること、用意や実行することが難しいものであること、そして何よりもすぐに得られる強化子を用いるほうが新しいことを覚えるには効果的であるからです。

A君に簡単な自立課題的なものを提示し、柿の種の絵カードを貼ったボードを見せながら、「課題ができたなら柿の種どうぞ」と言葉かけをし、課題に取り組んでももらいました。簡単な課題なので、すぐにA君はやり終えます。その後の③～⑥の手順の場面では、A君は初めてで知らないことなので、身体プロンプトを使いながらトークンのやりとりを行いました。2～3回も行うと、A君はプロンプトがなくても、トークンのやりとりができるようになりました。

次に行ったのは、課題数を増やすことでした。今までは1つの課題に1つのトークン＝柿の種だったものを、「課題2つできたら柿の種だよ」と1つの課題に1つのトークン×2＝柿の種としました。1つの課題が終わればA君にトークンを1つ渡し、ボードに貼ってもらいます。2つ目の課題が終わった時もトークンを渡し、それをボードに貼り、2つになったトークンをはがして私に渡します。そうしたら柿の種です。この時もあまり難しくない課題で行い、5つの課題で5つトークン＝柿の種まで増やしました。講師の先生にボードに貼るトークンの数は、最大でも5つと教わっていました。授業は6時間ありますが、掃除や帰る準備が中心となる6時間目を除く、1～5時間目までで、各時間の授業に対しトークンが1つ、5つトークンがたまったら「カレーライス」「うどん」「お絵かき帳」「お店」だよとしていくためでした。

いよいよ「朝のお約束」を強化子として用いることにしました。朝のA君と保護者とのお約束内容のチェックから始まるのですが、書かれている項目は5つ前後です。それをチェックし、教室にA君と入るとすぐに白紙のカードにお約束の内容を書きます。スケジュール表の各時間の絵カードにはトークンをつけておきます。1時間目が始まる前に「1時間目から5時間目までがんばったらカレーライス、シチュー、ゆで玉子、サラダ」とA君に強化子（カレーライス等）カードを貼り付けたボードを見せ、スケジュールを指差しながら提示しました。この頃にはボードに書かれている「～のためがんばります」を使い、「カレーライス、シチュー、ゆで玉子、サラダのためがんばります」と、最初に提示したときや、授業に集中できていないようなときなどにA君に言葉かけするようにしていました。



次第にA君が自発的に「～のためがんばります」とボードを見て口にするようにもなりました。

では、この強化子、効果の程は次号へ【9月発行第9版に続く】